

## 今日のみことば

### □ 11月20日(日) マタイ 26章

イエスは弟子たちと共に過越の食事をされた。彼らに起ころうとしていることへの備えをさせようとされたのである。過越の過去を振り返る。主の晩餐は過去の出来事を思い未来を見る

### □ 11月21日(月) マタイ 27章

イエスは総督ピラトの前で裁判をお受けになった。人々はイエスの死を求め、十字架につけて殺した。イエスの体は墓に葬られた。

### □ 11月22日(火) マタイ 28章

イエスは三日目によみがえられた。弟子たちに知らせに行く途中で婦人たちはイエスに出会った。イエスは弟子たちと山で会われて全世界に神の愛を知らせるように命じられた。

### □ 11月23日(水) マルコ 1章

イエスはバプテスマを受けるために、いとこのヨハネのところへ来られた。イエスは荒野に出て行かれ、サタンはイエスを罪に陥れようとしたが、イエスはそれに従われなかった。

### □ 11月24日(木) マルコ 2章

イエスは自分の業を始められ、たくさんの病人を癒やされた。イエスはレビを弟子とされた。また律法の本来の目的を見誤っているユダヤ人たちと論争をされた。

### □ 11月25日(金) マルコ 3章

イエスのご自分で特別訓練をしようと12人を弟子として選ばれた。そのうち4人は漁師であり、1人は収税人でローマに仕える者であるなど、種々雑多の男たちの集まりであった。

### □ 11月26日(土) マルコ 4章

イエスは喩えという描写的な話を用いて信仰について教えられた。種と土地、麦、からし種のお話し。イエスは自分でその答えを見いだすようにと語られました。

---

ろ ぼ No. 1790  
2016年 11月20日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

詩篇 116:1-2

わたしは主を愛する。主は嘆き祈る声を聞き／わたしに耳を傾けてくださる。生涯、わたしは主を呼ぼう。

「主に感謝せよ。主は慈しみ深く／人の子らに驚くべき御業を成し遂げられる」(詩篇107:15)とある。収穫感謝の日を前に、私たちはしっかりと主への感謝をささげる者でありたいと願うものです。

ヤコブは「良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです」(ヤコブ1:17)と言いますが、その慈しみの御手の中にあって今日も生かされていることを、しっかりと心得るべきです。詩篇に「主はわたしの羊飼い。わたしに乏しいことはない」とあります。それが私たちです。

イスラエルの民はアッシリヤやバビロンの捕囚の苦難の時代を経て、帰国後の新しい神殿の再建にも苦悩しながら、彼らは神の計り

知ることが出来ない大きな支えの中で、しっかりと守り支えられてきました。生きて働きたもう神が彼らの神でした。祈りに答えて下さる神でした。確かにその歴史の中にあって、祈りの即答をいただけなかったことしばしばでした。しかし、詩人は「わたしは主を愛する。主は嘆き祈る声を聞き／わたしに耳を傾けて下さる。生涯、わたしは主を呼ぼう」と言うのです。この卑しい罪人なる私が、無遠慮に耳元でささやくことを許され、しかも神は、その度に耳を傾けて願いを聞かれるばかりか、その願いを顧みて下さると言うのです。いかなることだとお聞きになるのでしょうか。私は神と私たちとの間にどのような結びつきがあるのかを思い巡らされる

のですが、私たちの側にはどのような良いものも見いだすことはできません。み言葉に神はしばしば「宣教の愚かさによって信じる者を救うことをされる」(コリト第一1:21)とあります。私たちはただただ、ある人の目には愚かに見えても、あくまで真実誠実をつくして、神と人に仕える生活を営むだけだと言うことです。

私たちの持てるもの、靈魂も、家族も、財産も、すべて残らず神から与えられたものです。その上に加えて、独り子キリストさえ、神は私たちの救いのために与えて下さいました。パウロは「キリストの愛われらに迫れり」と言いました。「主はわたしに報いて下さった。わたしはどのように答えようか」と言わないではおれないのです。

詩人は「救いの杯を上げて主の御名を呼び／満願の捧げ物を主にささげよう」と言います。人はいかに当てにならないものであるかを知り、主を信じて、自分の果たすべき責任を果たすのです。「わたしは主を愛する。生涯、わたしは主を呼ぼう」というのです。

すべてを与えたもう主に、しっかりと目を注がせていただくのです。脳性麻痺で手足を使うことができず話すこともできなかったクリスチャンの水野源三氏は、母親が指さす五十音表に瞬きの意思表示で作った多くの詩歌に私たちが慰め励ませてきました。「いくたびも／ありがとうと声出して／言いたしと思い／今日も暮れゆく」

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————  
詩篇51:1-17 赦しのための弁明

詩篇中に七つある悔い改めの詩篇の中で、最も宗教経験の深い歌だと言われる。「私」「あなた」が頻繁に出てくるそれが詩人と神との関係の結びつきを強く印象づけられる。

詩人は罪がきよめられることを切に願います。神の恵み、慈しみが、その願いを引き起こしたのでした。彼の罪は神に対するものです。にもかかわらず、詩人は神のみが、罪に対する解決の力を持つ方であることを確信して、罪からのきよめと、更に積極的に神の御霊により、新しい自由な存在となることを嘆願するのです。

罪の赦しと救いの経験は、その証しへと詩人を駆り立て、真の犠牲が何であるかを自覚させ、赦された者の歩むべき人生のあり方を教えるのです。「神が求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心／神よ、あなたは侮られません」。神の求めたもう供え物は、砕けた魂のほかありません。



Read God's Word.